

管内の百名山「高妻山」



乙妻山から望む高妻山

高妻山（標高2,353㍎）は、長野県北部の戸隠連峰の最高峰で、ピラミダル（ピラミッドのように角錐をなすさま。）な姿から戸隠富士とも呼ばれています。

高妻山は、新潟県妙高市と長野県長野市に跨り五地蔵山から高妻山山頂に至るまでの稜線が関東森林管理局と中部森林管理局との境界になっています。

高妻山は山岳密教（平安時代に起こった真言宗、天台宗などの宗派）の山伏と呼ばれる修行僧が入った山のひとつで、その名残が地名として小さな石仏とともに残っています。

高妻山の一不動いっどうがそれで、二釈迦じしゃか、三文殊もんじゆ、四普賢ふげん、五地藏じそうち、六弥勒みろく、七観音かんのん、八薬師やくし、九勢至ぜいじと続き、十阿弥陀あみだで山頂に到着します。

登山ルートは、長野県戸隠キャンプ場から一不動を経て高妻山に登るものだけで、往復には9時間前後かかり、日本百名山中でも最長行の山のひとつです。



山頂部の十阿弥陀と青銅鏡

草原が広がる牧場を抜け、溪流沿いのゆるやかな道を進むと徐々に勾配が増し、不動滝のある帯岩にぶつかります。さらに登り、避難小屋の建つ一不動を経て、五地藏山まで断崖を進みます。

五地藏山から先はアップダウンのある苦しい行程で、稜線直下の急登を登り切ると、ほどなく山頂へと辿り着きます。

豪雪地帯のため高山植物が豊富で、シラネアオイ、ハクサンシャジン、ヒメクモマグサなどが楽しめます。

上越森林管理署では、この高妻山をはじめとする豊かな自然を有する国有林を後世に伝えるため、登山者へのマナー向上の呼びかけや森林の保全管理活動を行っています。

（上越森林管理署 広報広聴連絡官 伊藤武徳）



岩肌の横断



雪国に特有なシラネアオイ